

徐々に阻害していく。つまりこれは摩擦的エネルギーと空間の緻密なぶつかりあいの二つによって、完全に活動を停止させるという法則、これが天羅地網の法則である。

もう一つの緩の法とは何かというと、緩の法とは急の法の反対を意味し、例えば急の法とは射殺をしたり、あるいは毒ガスによっても、例えば急激に生命を奪うような薬剤を使うのではなく、徐々に徐々に体を弱らせ、組織を弱らせると。例えば例を挙げるならば、ここにいるテイローパも例えば血を吐いたわけだし、あるいは君たちもよく知っている正大師であるマハー・ケイマやソーダラーも同じように喉から血が出る、あるいは血を吐く等の現象を起こしている。あるいは、そのままでいて鼻粘膜が破られ出血した者といったら、それはかなりのサマナがいると。そしてこの特徴のもう一つは視力を弱めるということがある。実際問題、八九年から視力を弱め、そして実際今回、完全なる乱視の状態になった者も存在していると。これは緩の法と呼ばれる法則、つまり、相手の組織そのものを徐々に弱体化し、そして止滅させる法則である。

しかしこの天の法則の天羅地網、および緩の法則というのは、天法における原則的な、しかし低級の法則と呼ばれている。これらの法則で屈するようでは天界において覚者と呼ばれているわたしがそれらの魂に敗北するはずはない。

彼らのイペリット、つまりマスタードガスの攻撃は今後も続くであろう。それだけではない。昨年三月から約二度程、父母のいない者が急にユニボをレンタルで借り、そして、富士山総本部道場に乱入し、車を十数台壊し、危うくポーシャがそのユニボの——ポーシャ師がね、ユニボのチームで殺されるような事件が起きた。しかしこの魂はまた出、次の仕事をしていると。で、これはわたしの弟子たちが秘密裏に調査した内容だと、その彼の自宅に現金封筒が無記名で送られてきたそう。これは公安、つまりJCIAをはじめとする国家公安委員会がよくやる手で、身元のない者にお金を与え、そして警察においてはある程度の罪で見逃すという保証をしながら重要人物を抹殺する、あるいは相手に被害を与える法則である。まさにちやちなヤクザっぽい法則だと思ふ。しかし死・生に対して完全なる悟りを達成しているわたしにとってこのような脅迫がいったい何になるのだろうか。

わたしは彼らのこのようなわたしの生命に対する切迫、脅迫に対して断固闘うつもりでいる。そういうと、ここにいる大阪支部のマハーヤーナの皆さんは考えるだろう。いや実際にはマハーヤーナもどきといった方がいいのかもしれないが。「ああ、オウム真理教の教団も大変だ。家でのおんびりと生活した方がええわ」と。ま、これがあなたの方の実態である。今の反応を見ていると。

なぜ聖者が闘わなければならない時代が来ているのかについて少し話をすれば、あなたの方の今のその怠惰さがいかに危険なものであるかについてよく理解できるようになるだろう。わたしたちは知らず知らずのうちに経験の構成、つまり五つの蓄積というものを積み上げている。それは何かというと、まず第一は身体の経験の構成、第二は感覚の経験の構成、第三はイメージの経験の構成、第四は経験した結果としての経験の構成、そして第五は識別、これは正しい、正しい正しくない等の経験の構成である。もし、この人間の世界が高い世界、つまり天界へ至るような法則が存在し、魂がその法則を実践しているとすれば、あなたの方が今着ているあなたの方の肉体を脱ぎ捨てたとき、つまり、死に直面し、次の生へ転生するとき、あなた方は何の実践もすることなく、高い世界へ転生することができる。

しかし、今この日本におけるあなたの方の情報といたら、それはまさに地獄、動物、低級霊域へと、放っておけばだよ、誘われる法則の集積なのである。もちろんこれは予言とか確信ではなく、わたしに対して仇なした者たちはすべて、無間激苦地獄へ落ちることは間違いない。

この経験の構成を少しでも変え、そしてそれによって、より多くの魂を高い世界へ転生させること、このために生まれてきたのがボーディサットヴァ、到達真智運命魂なのである。カルマの法則をよく考えてみよう。例えばだ。あなたの方が一の善を十人なしたならばどうなるかと、そうすると、その一の善は十人から十の善として返ってくる。つまりあなたの方が相手に対して反応しようとしまいと多くの法則を説き明かし、真理の実践を行ない、あるいは高い悟りを得てサットヴァの光を発し、それによってカルマをこの世に現象化することができるならば、それはあなたの方にとってこれ以上の人間としての達成はないということになる。

しかし、あなた方は無智である。例えば昨日、わたしはオウム真理教の信徒ですと。そして、実際に邪淫を

行ない、この邪淫というのは結婚していない同棲関係にあった者が他の男性と性的交わりを持ち、結婚するという話をしているわけだが。そこでわたしはこういう質問をした。あなた方の同棲関係においては経済的に援助があったのかなかったのかと。それは十分にありましたと。経済的に援助があったということはそれは明らかに邪淫であると。つまりそれは不貞なんだと。そしてあなた方が結婚するとするならば、そのカルマによって五百生動物界へ転生するだろうと。これはオウム真理教の真理を實踐していようと實踐してまいと、必ずその結果は起きる。

そうすると、少し耳学のある者はこう反論するかもしれない。それはザンゲすれば何とかなるんじゃないかと。しかし実際どうだ。ザンゲしたということはその後、例えばその悪縁を切って真理の法則に身をゆだねる必要性がある、本来は。そうだね。しかしそれができないで、今もつてくついているということは、それはザンゲしていないということになる。それは悪業ゆえに来世動物界へ転生することのもうすでに現象化がなされていくということである。それと同じであなた方が例えばこの、日本人として生まれ、そして記憶修習によって、あなた方の要素が動物的であったり地獄的であったり低級霊域的であったりして、あるいは人間的であったりするならば、あなた方はこの四種の生を必ずこうむることになる。そしてあなた方の意識がそれを肯定すればするほど、あなた方はその生にどんどんどんどん巻き込まれることになるのである。

ダライ・ラマ法王は朝日新聞のインタビューにおいてわたしの非暴力は過ちであったと、そのインタビューに答えてらっしゃる。もちろんわたしの経験から、『朝日新聞』がダライ・ラマ法王の主旨をすべて正確にわたしたちに述べ伝えたかどうかは甚だ疑問である。しかし、彼の中国政策によって、いまだチベットが帰らず、そして百数十万人もの彼の信者が殺されたことは間違いないだろう。そして、おそらくその多くの高い成就をした者たちは今、結婚して子供が生まれる、あるいはすでに生んだ人たちの子供として輪廻転生している可能性は非常に高いと言っておこう。それは仏教の最後の砦がこのオウム真理教、真理の最後の砦がこのオウム真理教だからである。ということは、最後の砦をもし、この地球が失うならば、この地球は法則なき空間、法則なき陸地、法則なき地球ということになる。

したがって君たちの使命は大きい。なぜ使命は大きいのか、キリスト、つまり聖・科・武の三つを備えた王に対して、君たちがその信徒として生まれたこと、そしてその信徒としてこれから君たちがどのように聖戦を繰り広げていくのか。

とはいってもまあ、まだ大阪の信徒はスヴァディスターナ、つまり性器にエネルギーを集中させて喜んでいるのが多いから、なかなかわたしのこの法則については理解できないかもしれない。しかしこれはオウム真理教の信徒といえども、そこにエネルギーが集中するならば先程述べたとおり、君たちは動物界へ転生するんだよということを改めてわたしは警告したい。なぜならば今のままわたしがJCIAの攻撃を受け続けるとするならば、あと一カ月ぐらいでこの命が絶たれるからである。ということは君たちはグルなしの流転をこれから行なわなければならない。なぜならば、グルを守ることができなかった全く能なしの弟子ということになるからね。

今日の話は入会なさってまだ間もない、新しい信徒にとってはショッキングな内容かもしれない。しかし、例えば君たちの現世的な内容を見ても、ニューヨークの株のダウが例えば四千円という非常に低い値になったりとか、あるいは岩手県で初めて信用金庫が倒産した例とか、あるいは赤字がどんどん続いている例とか、あるいはスパー三〇一条という貿易制裁の措置がアメリカで採られる例とかいう一つ一つの状況を考えるならば、あなた方がこれから安穩と生きていけるかどうかは甚だ疑問である。

そして九七年までには、例えば今の大手企業においては九七年以降のプランがないと。それはあろうはずがない。なぜならばJCIA、CIA等含めて、今の世界統一国家をもくろむ者たちは、まずは日米決戦を具体的にやらせようとしているからである。もちろん電子最先端の日本がアメリカに勝てる見込みは〇パーセントである。なぜ〇パーセントなのか、それは今まで米軍の属国部隊として働いていた自衛隊のすべての機能は、米軍そのものが知り尽くしているがゆえに、よっぽどの新兵器が開発され、そして米国が打ち上げている人工衛星を撃ち落とさない限り、勝つ見込みはない。あるいはロシアで開発されているラムジェット、これを積み込んだ最先端の電子機器を搭載した大陸間弾道ミサイル、しかもそれに原爆でも積まない限り、勝つ見込みは

ないということをつけ加えておこう。

したがってわたしたちはまともに生きたとしてもあと数年だよ。死の光の祝福を受けることになる。わたしがここで祝福といっているのは、あなた方がそれまであなた方のレベルで全力で修行をするならば、その死というものはあなた方にとって高い世界へステップするための素晴らしい転機となるだろう。あなた方が今のうちに煩悩的な生活を続けるならば、あなた方にとって、この死というものは大変不幸な結果を招くことになるだろう。それはあなた方の努力次第ということになる。

はい、それではね、今日の話をふまえてしっかりと頑張ろう。

第四十八話 (一九九四年三月十三日 大阪支部)

一九八九年九月、月の終わりに東京の杉並のある場所で瞑想をしているとき、いきなり頭頂が開き、そしてそこからどんよりとしたエネルギーと同時に、わたしに「キリストになれ」という示唆が降りた。

みなさんはキリストというと「聖なるもの」、そして「偉大な救世主」という認識があるかもしれない。しかし、その当時のわたしにとって、キリストとは「ユダヤにおける一宗教的指導者」であり、彼の人生はただ単に苦難に満ちた人生、まさに「ほふられた小羊」、つまり「犠牲になった小羊」であるという印象しかなかった。したがって、いったいこの意味は何を意味しているのか、これからわたしがどのような運命を歩かなければならないのか、それについてしばらく悩んだものである。

この「悩んだもの」というのは、例えば一般的にいうならば、苦しみとかあるいは憂いとかを含むわけだが、最終解脱をすると、そこに心の動きそのものが存在しない。では何が存在するのかというと、熟考と吟味が存在すると。

そして、案の定、神々の悪戯^{いたずら}、啓示であったことを表わすかのように、八九年から強烈なオウムバッシングが続いた。これは彼らが、つまり世界を統一しようとしているあるグループがアメリカを使い、そしてアメリカの配下としてのJCIA、内閣調査室を使い、あるいは公安を使い、オウム真理教の完全弾圧に踏み出したことを表わすサインだった、ということわたしは近ごろ初めて知ったのである。

近ごろ初めて知ったというのはどういうことかというと、例えば、この弾圧が日本の宗教団体、まあ例えば今これは有名な話だが、フリーメーソンの手先として頑張っている池田大作氏の率いる創価学会や、あるいは新生党の裏の実力者といわれている小沢一郎氏等々というラインまでの読みについては簡単に理解することができたわけだが、そうではなくその背景に、より大きな力が働いているということを知ったのが近ごろであるという意味である。

わたしのこの左頬の上にある、まあこめかみといってもいいのかもしれないが——水疱は、これはイペリッ

トガス、あるいはマスタードガスといえはいいのかもしれないが、要するに、びらんガス、皮膚をただれさせるガスの症状の末期の段階を表わす一つの兆候である。末期の段階を表わす一つの兆候とは、このマスタードガスは四期に分かれ、そして最終的には皮膚の湿疹と胸の締めつけ、出血、そして心臓の苦しみ等によってこの世を去らなければならない、そのような毒ガスなのである。

この毒ガスは中国において若干使われ、またドイツが大量に研究開発したことが世界史上知られている。そしてその大量の毒ガスによってわたし自体がはふられなければならないとは、まだ八九年の段階でわたしは知ることができなかった。

昨日、わたしはこの大阪支部の説法において、天の法則の中の「天羅地網」とそれから「緩急の法則」について説いた。昨日この道場に来ていらつしやらない方が若干名いるということだから、もう一度簡単に説明すると、「天羅地網」とは、あらゆる空間に人を配置し、そしてそれを網の目のように配置することによって、敵対する勢力のエネルギーを完全に摩擦によって摩擦していく方法である。この方法は、例えばいかに運動エネルギーがあったとしても、その物体に対して働き続ける α という加速度よりも μ という抵抗、これが大きい場合、その物体の運動は静止に向かう。これと同じように、その組織の持つ、まあ例えばわたしの持つエネルギー、あるいは組織全体の持つエネルギーより、抵抗 μ を大きくすることによってその活動を停止させてしまう、という法則なのである。

もう一つは緩急の法則である。この緩の法則と急の法則とは、「緩」とは要するにじわじわと攻め、見えないかたちで滅ぼしてしまう方法であり、「急」の法則とは、逆に例えばそれはちょうど去年の四月だったと思われるが、アメリカで起きた宗教団体つぶし、FBIの宗教団体つぶしのように武力を行使したり、あるいは政治的な圧力によって、あるいは司法における圧力によって完全に対象をつぶしてしまう方式である。

この緩急の法則とそして天羅地網の二つが力を発揮するようになったのが、皆さんもよく知っている例えば坂本事件である。これらの例えばデッチ上げ・ねつ造等によって、堂々と国家はマスコミを使い、そして警察を使い、例えば信徒の宅訪、あるいは信徒、入会した信徒、もう坂本事件が終わって何年も経っているのに、

その新しい信徒の親族等を回り、そしてその信徒が活動しづらい状況を作っていくと。この天羅地網の法則に対して破る手だてというのは、与えられる抵抗 μ よりも加速度 α の方が強ければ徐々に徐々に組織は拡大し、そしてその網を破ることとなる。

オウム真理教自体の活動は、先程述べた天羅地網のこの網にもかかわらず、少しずつ少しずつ大きくなってきている。もともとオウム真理教の持つ、その加速度を確信していた彼らは、先程述べた、わたしたちを秘密裏に抹殺する毒ガス作戦に出たのである。これは仙台での説法でも述べたが、彼らの取った手は非常に巧妙である。例えば、もしわたしたちが毒ガスだということで毒ガスマスクを着けたとするならば、彼らは教団に押し入り、そして、「こいつらは毒ガスを製作している」と、「そのための防御として毒ガスマスクをしているんだ」というふうにはアピールし、そして強引な司法の権力によってわたしたちをつぶしにかかったはずである。

ではだ。わたしたちがなぜこのようなほふられた運命、つまりいけにえとしての運命を歩かなければならぬのか、について説かなければならない。もともとキリスト教の特徴とは何かというと、これは「罪をあがなう宗教」という意味が存在する。つまり、例えばキリストを信じたならば、そのときからその人の罪は解放される。これはちょうど、わたしがあなたの方のザンゲを受けるとあなたの方の罪がわたしに来、そしてあなたの方のカルマが解放され、そこから救済されることを意味している。これと同じように、例えばその集団が、例えばわたしや高弟たちがあなたの方の罪を背負うとするならば、当然それはほふられる運命にあるのである。

したがって、今このような状況にあることそのものが、キリストとそしてキリストの弟子たちの集団であることの証明といっても、それは正しいということが出来る。なぜならば、もともとエネルギーは絶対的に一定であり、とするならば、例えばあなたの方の悪業がどこかで消滅しなければならぬ。それはあなたの方の帰依する対象であるわたしや、あるいはわたしの弟子たちがそれを背負い、そしてそれによってあなたの方の罪が解放されなければならないからである。

しかし、とはいえだ。聖書では今生キリストは長生きをすることになっている。きっと今から二千年前に現われたキリストの教訓にあまえ、よりいっそう強固な智慧とそれから強固な肉体を作るためのいろいろな秘法

サーヴエーションを受け、そして解脱へ至る道である。今ここに付けているこの帽子は、これはパーフェクト・サーヴエーションの電極である。なぜわたしがこのような電極をつけているかというと、これは毒ガスから身体を回復させる上において非常に大きな力があるからである。このパーフェクト・サーヴエーションによって皆さんが悟りを開くとするならば、在家出家関係なく、皆さんの幸福な転生というものは約束される。したがって、在家で皆さんが生活する場合、必ずパーフェクト・サーヴエーションを受け、そして高い解脱へと到達するべきである。

第二のパターンは出家の道である。これは皆さんが今生人間として生まれ、そして実際に高い解脱・悟りを目的として生きる場合、最高の道ということが出来る。もちろん、今出家した場合、いろいろ開発されたパーフェクト・サーヴエーション、その他の瞑想修行をまず加行として達成させ、ある段階の悟りに到達させることは間違いない。

第三のパターン、これはマハーボーシャの道である。このマハーボーシャは、皆さんが現世にしながら、例えば会社勤めしているがゆえに瞑想実践ができないとか、例えば環境が悪くて真理の実践ができないという人のための空間および生活を保障する、現世的な生活を保障する職場と考えていただいたらよろしい。したがって皆さんが在家で達成する、あるいは出家し解脱する、あるいはその中間位をとる、この三つの実践を行なうならば、皆さんの聖・科・武は確実なたちで完成の域へと達していくはずである。しっかりと頑張ろうね。いいね。

コペルニクスやガリレオ・ガリレイは、邪宗である中世キリスト教に対して、「それでもこの地球は太陽の周りを回っているんだ」と考えたはずである。わたしも皆さんに言いたい。「けがれた魂がわたしを殺そうとしても、それでも真理はただ一つの道なんだ」とね。

第四十九話 (一九九四年三月十四日 高知支部)

今日は、まず最初に天の法則の基本的な法則を二つほど皆さんに説き、そしてボーディサットヴァとはどのようなに生きるべきなのか、そしてこれからオウム真理教はどうしなければならぬのかについて話をしたいと思います。

わたしはおとといの説法で、「緩の法則」、「急の法則」について説いた。そして、この急の法則の具体的な形とそれから緩の法則の具体的な形について説いたわけだが、この緩の法則がいかに怖いものであるかについて、まず話をし、その次に「朱雀投江の法」と呼ばれる天の法則について説きたいと思います。

まず、急の法というものは即座に現象を現わし、例えば、相手を直接的に射殺したり、あるいは一撃で殺すような、例えば第二次世界大戦中に研究されたVXガスとか、あるいはソマンとかサリンとか、そういうもの、あるいは原爆等による瞬間的な、その対象の生命を断つ方法、これを急の法則であると説きました。しかし、逆に緩の法則の方が危険性は大きいだけではなく、大きい対象に対して、その対象を死滅する場合、有効であることをここで説かなければならない。

例えば、わたくしたちが身体を有していると。この身体が癌にむしばまれたとしましょう。すると、わたしたちの中でサットヴァの性質、つまり現象に対して絶えず明らかな状態を形成する肉体と意識を有する魂は、早期にそれに気づきます。それは例えばナードイーの詰まりによる痛みであったり、あるいは異物感であったりします。この痛みやあるいは異物感等により例えば検診を行ない、そして癌であることが発見されると。そうするとこの魂はそこに対して放射線治療を行なったり、あるいは抗癌剤の投与を行なったり、あるいは切断という方法を行なうことにより、そこから癌が転移しない可能性が非常に高いと。

ところが、例えばここにタマスの人がいて、非常に知覚的に鈍感で、大脳とのフィードバックシステムが非常に弱いとするならば、どうなるかということになると。これはまず癌が一つでき、二つでき、そして転移すると。そして体全体に広がり、症状としては最悪の状態になったときに初めてそれに気づくと。しかし、もう

このときにはもう手遅れであると。

そして、まさに現代の経済・政治・文化は、この緩の法則により、フリーメーソンによって攻め落とされる直前の状態であるということが出来ます。例えば、皆さんはこの話を覚えているかもしれない。それは神奈川県に米軍の多くの住居が建てられることになったと。そしてその市長が、あるいは住民がそれに対して反対したと。しかし、これはマスコミもそれにのっかり、ある程度の反対の表明の番組を作ったわけだが、あっさり通ってしまったと。

つまり、何を意味しているのかと。その背景にあるのは、今まさにこの日本が米国支配の本質から脱却していかないことを意味しているわけである。そして、このような目で現象を見るとするならば、日本は独立国ではなく、米軍の、あるいは米国のまさに属国に成り下がっている状況であることが明白であると。しかし、それはおくびにも出さないと。

では、この危機的な状況が、他にどのような影響を与えているのかと。それは例えば、スーパー三〇一条の制裁措置である。もともと、これは多くの経済学者が言っていることだが、正当な国家運営がなされる場合、その国、国々の経済的な問題に対して政治が関与することはあり得ない。これは一九七〇年代に多く日本の経済学者が出、そして、貿易不均衡に対する政治の介入の賛否が問われた時、ほとんどの経済学者は、政治の介入そのものがすでに国体、あるいは世界的な政治の流れにゆがみが生じているんだということを主張しました。しかし、それにもかかわらず、貿易不均衡はどんどん続き、そしてとうとうスーパー三〇一条という制裁措置へと至ったと。

しかし、いったい日本人はアメリカ人に対して、アメリカ政府に対して何か悪いことをやったのかというとそうではない。これは、多くの人が一生懸命労働し、そして作った物をただ単に売っただけである。もし必要なければアメリカは買わなければならない。しかし、アメリカ人の貪りによって買い、そして自分たちが物を買ってにおいて制裁措置を加えると。

しかし、それに対する認識というものは、例えば日本人においてだれもそれを否定的にとらえることができ

ないと。これは、まさに日本が米国の属国になっていることを表わしている。そして、例えば今の皇太子の奥さんが外務省上りの、つまりこの貿易問題に対して携わった女性であることを見れば、アメリカがよりいっそう、皇室を含めて支配を強めてきていることを表わしているとわたしは認識しています。

しかし、これらの問題は大きな問題ではない。なぜならば、個人個人にもし日本において悟り・解脱のチャンスが与えられ、そして個人個人の智慧が増大する機会が与えられているとするならば、それは大きな問題ではないのである。

しかし、わたしたちに与えられているものは何かというと、テレビをひねると、食べ物のコマーシャル、あるいは物のコマーシャルで、どんなわたしたちを低級霊域や動物へと引きずり込む。あるいはまた、チャンネルを変えると、人妻の浮気等々で、わたしたちを地獄や動物へと引きずり込むデータを移入される。あるいは殺人のデータであると。しかもその殺人のデータは嫌悪や利益を対象とし、対象を殺すデータということになる。つまり、最も悪いデータがわたしたちにインプットされる状況がこの日本でどんどん続いていると。

したがって、わたしは例えばこのオウム真理教の信徒と呼ばれる人の中に本当の信徒はどれぐらいいるのか、絶えず疑問に思っている。というのは、法則の実践とテレビを見る時間とどちらが多いのかという質問に対しての答えを聞きたい、というのとこれは同じであると。

したがって、この日本に将来はない、とわたしは断言したい。つまり、もし智慧が存在するなら、いかなる逆境に対しても必ず正答が得られ、それに対して一人一人が立ち向かう勇気を与えられるはずである。しかし、もし智慧がないとするならば、そして勇気がないとするならばそれを打開する方策はない。そして、この緩の法則の特徴というのは、じわじわと対象を変えていき、そして、最終的には完全に無智化させ、力を奪い取ってしまう、あるいはまとめて殺してしまう法則なのである。

したがって、急の法則より緩の法則の方が低級な法則ではあるが、高位に天界では属するのである。

次に、朱雀投江の法則について説きたいと思う。もともとこの朱雀というのは南方の主神である。そして、特徴としては空を駆けめぐることを特徴とし、その特徴は羽である。そして、この投江というのは「湖に投げ

これは、一九九〇年に清流に対して火炎瓶を投げたり、あるいは実際に突っ込んできたヤクザが二人いる。その一人は自分のナイフで死に、そしてもう一人は交通事故で足がなくなった。それから『サンデー毎日』の編集長である牧太郎は、痴呆の状態、つまり完全なる無智の状態になり身体が不具になった。波野村の村長は脳卒中にかかり、倒れ、村長が代わった。「被害者の会」の永岡は胃潰瘍になり、そして胃を切り、生命が縮んだ。まあ、これらの現象、今わたしの知り得ているこれらの現象は、わたしたちがしっかりと真理を実践している場合のみ起きるボーディサットヴァの法則の一つであるということができる。

そうすると、あなたがたはこう考えるかもしれない。それは「カルマの法則」というものは全く慈愛がないのか」と。しかし、これは正しい目から見ると、真の慈愛なのである。ではどのような慈愛なのか。もともと本当の慈愛、本当の哀れみというのは、対象に対してカルマの法則をしっかりと認識させ、この生死の輪廻から脱却させることがただ一つの慈悲なのである。したがって、対象に対する単なる同情や、対象のカルマを悪くしたり、あるいは単なる愛が対象を増長させ、そして真理を見失うような現象の結果として現われるとするならば、それは真の慈悲ではないということになる。なぜならわたしたちは無始の過去から生まれ死に生まれ死に……を繰り返しているからである。

わたしはボーディサットヴァの法則により、この生命の灯火が自分自身で消えるまで、つまりわたしにとつていかなる毒ガス攻撃も自分自身がこの肉体に在ることそのものが苦しいと思わない限り存続し続けるであろう。したがって、わたし自体の意志がこの肉体から離れるときまで、それは今の肉体の状態だと一カ月以内かもしれないが、法則を信徒の皆さんに説き続けていきたいと考えている。しっかりと頑張ろう。いいね。

第五十話 (一九九四年二月十五日 杉並道場)

人間のおごりというのは、対象の認識を誤らせるに十分なだけの要素を持っている。アメリカ合衆国はモンロー宣言によって外国との不干渉を規定し、そして、その善業もなく悪業もない状態ゆえに、彼らは敗北をせずにこの一九〇〇年に突っ込んできた、ということが出来る。しかし、彼らのモンロー宣言も第二次世界大戦終了と同時に、例えばベトナム戦争でもわかるとおり、対外的に侵略のかたちをとるようになった。この「侵略のかたちをとるようになった」ということは何を意味するのかというと、国家は徐々に徐々に悪業と善業のバランスが崩れ、悪業優位の状態になるということである。

皆さんは、今の日本を独立国家と考えているかもしれない。しかし、これは実際第二次世界大戦に参加した智慧ある戦士たちは、「今の日本の状態は明らかに独立国家ではなくアメリカの属国である」と主張する。なぜならば、自国に、つまりこの日本に他の国の軍隊が駐屯していることイコール属国であると定義するからである。したがって、そのような目で見ると、アメリカにおべっかを使う政権は、あるいはおべっかを使う人は、それによって権力を得、そして国を統治する形態がとられている。

例えば、例を挙げるならばクリントン対ブッシュの対決のとき、クリントンは初め政府によって非難された。その非難した自民政権はその後あっさりと崩壊し、そして日本新党、あるいは新生党等をはじめとする連合政権がこの日本に成立した。これは何を意味するのかというと、まさにこの国家がアメリカに対して最敬礼をする、アメリカ属国型であることを意味している。

では、このほかにわたしたちはアメリカの属国であるという証明を得ることが出来るのか。これは以前の説法でもわたしは話をしたが、例えば、あれは神奈川県藤沢市だったと記憶しているんだが、米軍の住居を、非常に豪華な住居をその藤沢市に作るとか、あるいは今検討されているのは、米軍の給与そのものを日本人が税金として支払うとかいった米軍に対しての完全なる負担、経済的負担である。

日本には軍隊がないかというそうではなく、自衛隊という立派な軍隊を持っている。この自衛隊の年間の

予算は約四兆円に上り、この四兆円の予算というのはイギリス、フランス等と並び、ほとんど差がないわけだが、世界でも有数な軍事支出を行なっているということになっている。しかし、実態はそうではない。例えば、フランスやイギリスの兵器の価格と比較するならば、米国製の高い兵器を米国人が、米国の軍隊が買うよりも二倍、あるいは二・五倍程度の高い金額で買われている。これらは何を意味しているのかというと、国家予算は、防衛費の国家予算は確かに大きいですが、その実態は伴っていないことを表わしている。とはいえ、まあ、他の東南アジア等の国に比べると、それは大きな軍事費、あるいは最先端の軍事費ということができるであらう。

しかし、ここで一つ気をつけておかねばならないことがある。それは、このような属国支配体制というものは、世界史上いろいろ検討すると、そんなに長くは続いているということである。まあ、せいぜい続いたとしても四十年、あるいは五十年が関の山ということになる。もし、五十年だとするならば、一九九五年あたりにターニングポイントがあると考えるべきである。

わたしが最初に「傲慢さは対象に対する認識を誤る」という話をしたが、これは今のアメリカが、日本人における一見優秀と呼ばれる、媚びへつらう、ちやうど中国でいうならば、ちやうど奸臣、つまり自己の利益だけを見つめて公の利益、公の利益を見つめない者たちが政治の中心に立っている、この日本を統治して、そして自分たちは統治し続けているんだという認識は過ちである、ということである。

そういうとこのように反論するかもしれない。いや、例えば今国を守っている自衛隊の人たちは、「わたしたちは日本国民のために自衛隊として入隊し守っているんだ」とか、あるいは「わたしは、わたしたちは天皇を守っているのだ」と言うかもしれない。この天皇に対する政策はちやうど、かいらい政権として、つまり米国の意図にかなった政治形態を保つ上において、最も都合のいいものとなった。例えば、今の天皇の奥さんはまさに一般の日清製粉の令嬢が奥さんになったわけだし、それから今の皇太子の奥さんも、今度は貿易関係に従事していた外務省の女性が今の皇太子妃殿下となっているわけである。これらは何を意味しているのかというと、より米国としてコントロールしやすい政権づくりを行なっているということができる。

今日の話の中で、アーナンダが細川首相とクリントン大統領との関係について新聞の写真から話を展開したが、あれはまさに同等の関係に対して行なう礼儀ではない。というより、彼らは同等とはこの日本を考えていないのである。では、なぜ同等と考えていないといえるのだろうか。それは例えば、今までの貿易不均衡に対してスパー三〇一条の施行だけではなく、多くの無理難題を言いつけてきた。しかし、かいらい政権の宣伝先鋒であるマスコミは、それに対してほとんど小さな記事にどどめ、ただ事実を淡々と述べるにすぎない論調を展開している。これはある意味において正しいということができる。なぜならば、先程も述べたとおり、日本の今の自衛隊の武力というものは、アメリカに比べるならば、戦ったら一瞬のうちにうち壊されてしまいうぐらいの武力しか存在していないがゆえに、戦うことは不可能だからである。

ところでなぜ、わたしがこのような話をしているのかと。実は宗教のジャンルにおいて「カルト」と呼ばれる宗教が存在する。カルトとは何かというと、カリスマ性を持った教祖の少数の宗教的集団を表わすと。この宗教的集団は社会的な組織に対して溶け込まない性質を有していると。これをカルト宗教と呼ぶのである。このカルト宗教の恐怖というものは、これは世界史を見るならばよく理解できる。特に日本においてもそうだし、あるいは中国においては、その典型的なパターンが紅巾の乱、つまり明王朝を打ち立てるきっかけとなった宗教の動乱、宗教戦争、このきっかけを有することのできるような教祖、これこそまさにカルトの宗教の教祖ということができる。

そして、今の腐敗したアメリカや、あるいはこの日本においてそれらの要素が存在するのかしないのか、つまりその教祖は本当に天才的な要素があり、そしてカリスマ性が存在し、膨大な力を将来において有するのかわかをチェック入れるために、いろいろなバッシング等を含めた仕掛けが入ると。そして、アメリカはいくつかの宗教団体が、これは一九九三年にも一つ宗教団体がFBIによって滅ばされたわけだが、宗教団体が完全に軍事的、あるいは警察権力による弾圧を受けたと。そして滅ばされたわけだが、宗教団体が何かという、CIAである。そして、CIAの出先機関がCIAであるということが出来る。

では、なぜJCIAが動いているのかについて検討しなければならない。それはオウム真理教の教祖・麻原

彰晃は、このカルト宗教の、つまり彼らが最も恐れている要素をすべて兼ね備えた人物だからということになる。そして、この日本が来るべきとき、つまり反米、本当の意味での反米、つまり属国から解放され、日本が独立国として動き出すとするときの中心人物の必ず一人になるだろうと彼らは断定しているがゆえに、毒ガス攻撃、毒ガス攻撃もこれはマスタードガス、それからVZ（※VX）等を含めた神経系のガスを混ぜ、混入し、そして噴霧を八八年から続けているのである。

では、その証拠があるかという問題について説かなければならない。これはその証拠が存在すると。ミラレバ、一本出して。

これからお見せするものは日本のどこへ行っても手に入らないものである。つまり、それは何かというと、先程述べたマスタードガスが噴霧されているかどうか、あるいは残留がどの程度なのかどうかを測るロシア製のガス検知器、毒ガス検知器である。そして、この毒ガス検知器で第一サティアン、第二サティアン、第四サティアン、第六サティアン、第五サティアン等のすべてが反応が出ると。そして、道場から離れた富士山で引いてみるとそこでは全く反応が出なかった。これは何を意味しているのかというと、わたしたちをマスタードガスによって確実に滅ぼそうとしていることを表わしている。

もともとわたしは最終解脱をなした者である。したがって、ガスの影響は噴霧され続けなければ、消してしまふことができる。したがって、この一カ月以内に何回かもし彼らのガス攻撃を受けないとするならば、わたしは生命を延長することができるだろう。しかし、彼らの攻撃の手はどんどん強くなり、実際わたしがこの講話を始めてから、今までマスタードガスの攻撃を受けなかった第七サティアンにもマスタードの匂いがぶんぶんするようになり、目を痛め、そして呼吸器の障害を弟子たちが受けていることをここに付け加えておこう。

これらのことが堂々とできる立場にある者といったら、それは権力、しかも権力の中の中心である内閣調査室しか存在しないと。そして、これはわたしが彼らの毒ガスによって倒れるにしろ、倒れないにしろ、この日本の属国体制は必ずやカルマの法則により、宇宙の偉大な法則により、バランスを崩し、日本は素晴らしい独立国家への道を間もなく歩き始めるはずである。

わたしは宗教家、瞑想家であると同時に、歴史の研究家である。なぜわたしが歴史を研究するのか。それは仏教の法則の本質であるカルマの法則がどのような形で現象するのか、そしてそれはどのような形で続き、どのような形で次のステップを踏むのかということを実に知るためである。

今から数日前、男の子が産まれた。この男の子はパンチェン・ラマの生まれ変わりである。それは、容姿そのものも大変似ているし、わたしの見たヴィジョンもそれと類似するものであったし、彼が亡くなるときの病の状況をそのまま生まれてきたときにまだ引きずっていた等々のいろいろな状況を考えて、これは間違いないであろう。そのときに見たヴィジョンはチベット、このチベットのポタラ宮殿が現われ、そして解説が入ったと、アストラルで。「このチベットの仏教王国はすでに滅んだ王国です」と。

しかし、この仏教がこのカルパの終わり、マイトレヤや真理勝者によって救済されるとき、魂の救済の砦の中心となるとするならば、当然仏教はどこかで息を吹き返す必要があると。そして、わたしはその吹き返せるただ一つの砦はこのオウム真理教であると考えている。

これがね、マスタードガスの検知器なんだね。これにね、外側のガスを吹き入れると。そうするとバイオテクノロジーの力によって、この色が黄色く変化するんだね。その黄色く変化する度合いによってだいたい零点何ppm、あるいは何ppmこの空間にマスタードガスが吹き込まれているか、ということがはつきりわかるんだ。

で、この検知管はこれだけではなく、例えばサリンとかソマンとか呼ばれる、要するに神経ガス、これはアセチルコリンを完全にブロックすることにより、呼吸を停止させてしまう神経ガスだが、等もあるわけだが、それは全く反応しないと、これだけが今反応しているんだね。で、そういうサリンとかソマンとかいうものはなぜ反応しないのかというと、文献を調べると非常に消えるのが早い。だから、彼らがまいていていないではなく、少なくとも今はまいていないということは明らかであると。しかし彼らが賢いのは、このマスタードガスと呼ばれるものは、まず体に蓄積し、そして病状が長引くと。つまりちようど病気のような感じになるんだね。

例えば、わたしのこの左のここに水疱があるわけだが、これもマスタードガスの末期症状の一つを表わしている。実際この水疱はわたしの口の中等に現われたわけだが、それはすべてツァンダリーの瞑想によって打ち消してしまった。しかし、また毒ガスの空間に入ると、またできてくるんだよ。ま、したがって瞑想というものは、非常にわたしたちに高い肉体の状態、エネルギーの状態を与えてくれることは今回の毒ガスによっても証明されたわけだが、しかし、彼らの積む悪業というものは、いかに膨大なものであるか、間もなくもつともつとはつきりした形で証明されるだろう。

実際問題として、君たちもよく知っている波野村の村長は脳溢血で倒れ、脳に障害が出て倒れ、それからオウムバッシングの皮切りになった『サンデー毎日』の牧太郎、彼も半身不随になり、そして痴呆の状態に陥った。つまり無智の状態に陥った。しゃべれなくなった。あるいは「被害者の会」の会長の永岡も胃に潰瘍ができ、胃を切り落とす結果となった。それから集中的にいわれなきオウムバッシングを続けていた熊本では君たちも知ってのとおり、洪水あるいは台風がその年三回襲い、相当の人数が死んだ、等々の事実があると。これは何を意味しているのかというと、まさにわたしがキリストの再来であることを意味していると。ここでポイントがあると。では、キリスト、つまりイエス・キリストとわたしの共通性はどういうところにあるのだろうか。あの当時、今のイスラエル、つまりユダヤは、ローマ帝国によって支配されていた。ローマ帝国の属国下にあった。これはちょうど今の日本がアメリカ帝国の属国にあるというシチュエーションと非常に類似していると。次に、このユダヤにおいては、その中心的なものは神道であった。同じようにこの日本も神道であると。そしてそこに神聖世界の法が吹き込まれた。そしてキリストは十字架に架けられ殺された。わたしも八九年から大変なカルマ落として遭い、オウムバッシングに遭い、そして十字架に架けられた。ここまでは共通していると。

しかし、聖書では何と言っているかというと、その後のことを言っているんだね。つまり、次に現われるキリストは強大であり、勝つんだと。確かにイエス・キリストと比べるならば、わたしの弟子たちはこれは信徒も含めてそうだが非常に知性が高く、そしてイエス・キリストの十一人の弟子のように逃げ出すことはほとん

どの弟子がしないと。まあ、何名かはいるけれども。

これは何を意味しているのかというと、その法則の堅固さを意味していると。しかし、法則の基本的な内容については仏教もあるいはキリスト教も同じだから、つまり、五戒、殺生しない、偷盗しない、邪淫しない、そして契約を守る——嘘をつかないね——等の実践があると。さあ、これから聖書の予言、つまりアポカリプス等を含めて、聖書の予言が的中するのか、つまり、わたしが真のキリストになり得るのかどうか。まあ、それは君たちがどの程度一生懸命頑張るのかで決まるよね。

ところで在家の者たちは何を実践し、そして出家の者たちは何を実践すればいいのか。あるいは在家はどのような選択があるのかについて話をしなければならぬ。

JCIAが考えているとおり、わたしの状態がこのマスタードガスの四期目に入り、そしてこのガスというのは再現性があるからね。再現性というのはつまり、その症状まで入ったら、次にガス攻撃を受けると、その肉体というものは非常に弱くなる。例えば君たちもよく尊敬しているケイマ正大師やヤソーダラー正大師も喉から血を出す、あるいは心臓が苦しくなる等の症状を實際訴えていたわけだし、あるいはジーヴァカ師やヴァジラティッサ師、あるいはその他多くの人たちが、ま、ミラレバ正悟師なんかもそうだが、鼻から血を出したり、喉から血を出したりしていると。これは明らかに第四期のこのマスタードガスの症状なんです。この第四期のマスタードガスの症状に陥ったオウム真理教、これがまあ、これから数回本格的に噴霧されたときにわたしは逝ってしまうかもしれない。

もともとわたしはこの世に生き続けるか死ぬかについては、もうすでに自由なステージに来ている。そのわたしが逝ってしまうかもしれないというのは、この肉体、この肉体を有していたとしても皆さんのお役に立たないと、皆さんの霊的なステージの進化のお役に立たないと考えるならば、この肉体はあっさり捨ててしまうだろう。それはわたしの意思であると同時に、シヴァ大神、すべての真理勝者方のお決めることである。

したがって、その道をしわたしがたどるとするならばだ、在家であるあなた方はとにかく、多くの人にわたしが逝く前に法則を説き、そして教団に導き入れる作業をしない。これがまず在家の最高の功德である

ということが出来ます。

次に、出家できる者は出家しなさい。というのは、偉大なるグルが現われたとき、そのグルにつき従い、出家しすべてを捨て、そして法則の実践を行なうことが出来るとするならば、それは来世において未来際において大きな福縁、あるいは貴縁を生じたことになるから、出家できるなら出家しなさい。もし、在家にまだ未練があるならマハーポーシャに行きなさい。在家で実践するならば、とにかくパーフェクト・サーヴエーションを受け、そして高いステージへと到達しなさい。

つまり、在家の実践は二つあると。これはパーフェクト・サーヴエーションをしつかり受け、ステージを上げることと、それからもう一つは先程も述べた多くの人に法則を説き、強引にその哀れみによって導き入れることである。在家じゃなくてもいい魂については出家をしなさい。あるいはまだ現世的にいろいろな借金等を含めて問題がある人はマハーポーシャに来て、少なくとも人生のうちの半分ぐらいは法則の実践をしようではないか。

では、在家出家を問わず実践しなきゃならないものは何か、について説かなければならない。それは、今の時代においては聖慈愛よりも聖哀れみが必要であると。つまり、あなた方とあなた方の周りの魂は逆縁である。それは「偽」かもしれないし「真」かもしれない。「逆縁の偽」とは何かというと、お互いがお互いの足を引っ張り合い、そしてそれから真理の法則から遠ざかるということ。「逆縁の真」とは何かというと、お互いがお互いに傷つけ合うのだが、その傷つけ合うことによってステージを上げること。この逆縁の偽であるうと逆縁の真であるうと、あなた方が聖哀れみを持ち相手に対して力づくで真理の法則を吹き込み、そしてグルと引き合わせる。これを実践するならば、あなた方は今生最後のグルとの縁において素晴らしい功德を積むこととなるだろう。

そして、それと同時に「聖・科・武」といわれる三つの実践をしなさい。この「聖」とは何かというと、今までのオウム真理教の教えをとにかくトータル的にもう一度学び直し、そしてそれを現証すると。現証するのは言葉についても聖なる八支の道、八段階の真理の実践を行なうことに努め、そして自己の状態を見るについ

ては証智・捨断・現証・修習という四つの法則によって見、日々の生活においては二正勤二正断でチェックすると。そして言葉については十戒の中の妄語・綺語・悪口・両舌を捨断し、慈愛・哀れみのこもった言葉を話すようにすると。このような実践形態をとること、これが聖の実践です。

「科」とは何かというと、一体今の世の中はどうなっているんだという社会構造に対するアプローチだけではなく、これは気をつけなければならぬのは、ただ単にマスコミの雑誌等を読んでいると、その謬見解によって自分自身の思考が鈍ってしまうから非常に気をつける必要がある。できるだけ専門書を読みなさい。そして特に、軍事関係の一体どういうものがあり、それはどういうパワーを有しているのか等についてしっかりと理解する必要がある。例えば、科の実践を行なうとするならば、原爆が光ったとしても救われる可能性はあるということだ。この救われる可能性というのは、例えばそこから出る放射能等については、水が非常に防御になるから、例えばそれをうまく使った山水の地において時期を構えることにより、それが自然の核シエルターになる可能性がある、等々について検討できると。

また、「武」はこれは先程も述べたとおり、例えばウインド・トレーニング、小乗のツァンダリー等の実践を行なうことによりエネルギーが強まると。エネルギーが強まると、例えば毒ガスの影響を消し去ることが出来るようになる。毒ガスの影響が消し去ることが出来るということは、例えばC兵器やB兵器を食らったときに、普通の人は三十分で死ぬのが一時間二時間で死ぬことができるようになる。そうすると、一時間二時間で死ぬことができるということは、それに対するアンチメディスン、つまり例えばこれはソマンにしろサリンにしろ、それに対する反対側の薬物があるからそれを注射することにより、その毒を消すことができる、等々の多くのメリットが存在しますよと。

したがって、皆さんが聖哀れみの実践を行ない、法則の記憶修習をなし、そして聖・科・武の実践を行なうとするならば、皆さんはこれからの激しい、しかも過酷な、しかも恐怖に至る二〇〇〇年に向かって、あるいは二〇〇〇年以降に向かって幸福な人生を歩くことができるのではないかと確信を持っています。皆さんの真理の実践、および聖・科・武の実践を期待したいと思います。

この中で仏典の研究を行なっている者は、次の一節を読んだことがあるはずである。それは、外道の者に改宗を迫られ、「お前は改宗をするならば命は助けてやる」と言われた在家修行者が、「ヴァジラ・ナマ・ブッダヤ、ヴァジラ・ナマ・サンガヤ、ヴァジラ・ナマ・ダンマヤ」、つまり「仏陀、サンガ、法則に帰依します」と唱え続け、そして頭を叩き割られ、死んだと。その魂は死後、有能神の世界、三十三天の世界へ至ったと。

なぜ、この在家修行者は、そのマントラ、仏陀に対して、そしてダンマ、つまり真理に対して、そしてサンガに対して、出家修行者に対して帰依することができたのだろうか。それは、この人間の生というものは非常に短く、そして、死、その死におけるトランスフォーム、死における変化を中心として生きること、これが仏教の本質である、ということを知っていたからである。

ところで、わたしは今信徒の皆さんにマスタードガスについての話をした。そして、その対策として、オゾン、つまりO₃の強い酸化作用によって、このマスタードガスの害を取り払うことができることを話した。そして、実際、そのマスタードガスの反応はほとんど消え、ほとんどマスタードガスの影響は出なくなった。

しかし、次に彼らが打った手は何かというと、もつと速効性のあるサリン、ソマンと呼ばれる神経ガスである。この神経ガスは、アセチルコリンと呼ばれる体内物質と反応し、そして神経系の働きを完全に停止させ、呼吸停止、そして視野狭窄等々の働きにより、死に至らしめる毒ガスである。今、彼らは第二期としてその毒ガス攻撃に入ったと。

ところで、ここで一つ話をしておかねばならないことがある。それは、わたしの今この話を聞く魂は幸いであるということである。なぜ幸いなのか。それは、必ずや第三次世界大戦は起きると。そして、その時使われる兵器は原爆であったり、あるいは毒ガス兵器であったりする。そして、その使われる兵器の一つ一つが今試されているとするならば、その毒ガスに対しての対策、例えばマスタードガスに対してはオゾン発生機を用意し、そして毒ガス用の服と、それからマスクを被っていれば安全であるとか、あるいはソマン、サリンに

対しては、これは今それを消すための実験に入っているわけだが、弱アルカリ性の、例えば水酸化カルシウム等の水溶液を超音波によって噴霧する、つまりエアゾール化することによって、空気中で水酸化カルシウムと、そしてソマンやサリン等を反応させ、それによって無毒化するという方法。

これらの今までかいま見ることのできなかつた方法により、毒ガスが無毒化されるとするならば、わたしたちは何ら恐怖する必要はないわけである。そして、ましていわんや、もし、わたしたちが死んだとしても、先ほど述べたとおり、三宝に対する帰依は、わたしたちを偉大な天の世界へと導いてくれている。

実は、わたくしはこの防衛に出る前、今年の一月の終わり、わたしは次の生はどこであるかということを思念していた。すると、有能神の座が一つ空いており、そこにわたしは帰ることになっていると。そして、そこには多くの美しい天女たちが後宮としての生活をすでに始めており、そしてわたしはそこへ至り、そこで君臨することを待っている。

ということとは、死そのものは単なるトランスフォーム、つまり変形、自分自身の生命体の変形であって、それ以上の何物でもないんだ、ということである。もちろん、わたしが次の生、有能神の世界へ転生するかどうかについては、これからどのような生き方をするかによって決まってくるわけだけどもね。

したがって、俗に呼ばれる修行者には、「妖怪」と呼ばれるタイプと、それから「聖者」と呼ばれる二つのタイプがあるわけだが、このもし聖者と呼ばれるタイプの魂であるとするならば、今回のこれらの現象を起爆剤にすればよろしい。

ここで、妖怪と聖者の違いについて話をしておく必要がある。妖怪と呼ばれるタイプは、要するに修行し、それによって超能力を得、それを現世的に自分自身の欲望のために活用する魂である。したがって、いろいろな力は有しているが、その魂は絶えず心が不安定で、そして欲望が多く、その欲望を神通力によってあらわす。聖者とは何かというと、もちろん神通力を有するが、心の寂靜、そして心が絶えず安定した心地いい状態を目指す魂であると。

この二つの魂の違いは修行の方法にあるのではなく、心の持ち方にあるということができる。つまり、真に

偉大なる三つのもの、グル、真理、そして真理を實踐する魂に対して帰依しているかどうかであると。妖怪は帰依はしない。何を行なうかという、法則を盗む作業しか行なわないと。当然これらはお互いに神通力を有しながら、行く世界が違ってくる。

では、信徒はどのように今のこの状況を活用すればいいのか。それは簡単である。まず第一は、今こそただ一つの真理であるオウム真理教の法則を広めるべきである。ではなぜ今こそなのか。それは、グルはこれからどれだけ生きるかわからない。

例えば、わたしは今回ロシアへ行ってきたわけだが、一度も説法をせず、ロシアの信徒の前にこの顔を見せることなく帰ってきた。もちろん、ロシア人サマナに対しては、イニシエーションおよびホーリーネームの賦与を行なったわけだが。その理由は何かというと、わたしが着いたとき、日本のTBS、およびバチカン——これはキリスト教の、皆さんもよく知っているバチカンだが——がチームを組み、そしてずっとわたしを見張っていた。そして、右翼からの脅しがかかり、一回目のキーレンコンサートの初めに放火が起きたと。

で、この右翼の動きそのものは一体どういうところが動いているのかというと、皆さんもよく知っている「ゴルバチョフ基金」と呼ばれる、元ソ連の大統領であるゴルバチョフ系統の者たちが動いているということである。そして、それとバチカン、それからアメリカのCIAが絡んで、まあ要するに生命を狙っている。ま、いよいよわたしも大物になったものだと大変喜んでる次第である。

まあ、それはいいとして、しかし、まだまだあなたの方に法則を説き明かす必要があると。しかもわたくしは少なくとも一カ月は生きると約束したわけだから、今回のロシアは、うまくマイトレーヤその他の弟子たちに任せ、そして急きょ日本に帰ってきた次第である。

ところが、この日本に帰ってきたことが幸いし、というのは、もし帰ってこなければ家族はおそらく今ごろ死んでいたかもしれない。それは先程述べたとおり、ソマン、サリンと呼ばれる神経ガスの攻撃を受け、そして三日間体が動けない状態に、例えばヤソーダラー正大師や、あるいはカーリー等はなっていたからである。話を元に戻そう。これらの現状に対して、妖怪タイプの魂は恐れるかもしれない。「いや、俺は命が惜しい

んだ」と。しかし、この命は果たしていつまでもつのかな。そして、そのわたしたちが、ま、とはいっても、この中でも「いや、わたしは死後の世界をまだ知らないんだ」とか「信じられないんだ」という魂がいるかもしれない。よって、より全力で修行し、そして次の生の確信を持つ必要がある。

あなた方がその経験ができるかどうかは、あなた方のグルがこの人間界に生存しているかどうかで決まる。もしグルがいなければ、いくらあなた方が修行したとしても、その効果は十分の一、あるいは百分の一になるはずである。したがって、あなた方が自己の修行をすることと同時に、それからあなた方の周りに真理を広め、できるだけ多くの魂を救済すること、それによってグルとのパイプを結ぶこと、これこそが在家で生きる第一歩であるといえる。

そういうことのできない魂はどうしたらいいんだと。これは当然布施・奉仕の實踐を行なうことにより、そして教學をすることにより、教団とのパイプを強めるべきである。また、一步進んで、もう一步進んで修行をしたいという魂はどうしたらいいと。これはマハーボーシャに来、そして仕事半分、修行半分の生活に没頭したらよろしい。では、それよりも進んだ魂はどうするんだ。それは出家し、そしてフルに二十四時間救済活動の手伝いをし、真理を究める道を歩くべきである。いずれにしろ、わたしたちが生きていることはただ一つの目的しかない。それは偉大な生命体になる道、これをより完成に近づけることである。

わたしは今の状況に大変感謝している。それは、例えば今回のマスタードガス、このマスタードガスを経験しなければ、先程述べたオゾンによる消去法、オゾンによるマスタードガスを消す方法というものを発見することができなかっただろう。そして今、それよりやや難しいソマンやサリンの攻撃を受けていると。しかし、これに対して、もし弱アルカリ性の水溶液のエアゾールが効果あるとするならば、それもまたあなたの方に対して、あるいは弟子に対して、あるいは第三次世界大戦の防御に対して、大きな利益を得るはずである。

このように樂觀的に生きること、これが真理を實踐する魂の道である。いいね。はい、それではしつかり頑張ろう。

君たちもよく知つてのとおり、帝政ローマの属国であつたユダヤに、今から約二千年前、イエス・キリストが登場した。そして、ユダヤの民はイエス・キリストを結果的には十字架に架けることとなつた。そして、その果報として、彼らはそれから国の衰退が始まり、そして数十年後には流浪の民と化したのである。

ところで、警察予備軍(※警察予備隊)というものがある。これは日本史に詳しい人ならば、「ああ、自衛隊の前身である」ということに気づくはずである。この警察予備隊というのは、いったい何を警備するのか、何を安全にするのかということを経史的事実として調べるならば、それは日本に駐留した米軍、あるいは米軍の家族の安全を日本人の他の、要するに反アメリカの人から守るということから、この警察予備軍は始まり、そして徐々に形を変え、自衛隊というかたちになつたと。

ここでもしその事実気づくならば、日米安保条約の内容について何ら疑問を有することがなくなるはずである。ではいったい、どのように疑問を持つ必要がないのであろうか。それはもともと米軍および米軍の家族を日本人から守るために自衛隊が組織されたとするならば、日米安保条約において、米軍の指揮下に自衛隊が入ること、まあ、今はその点についてはうやむやに、引き継ぎによって、つまり条約が更新されるときにうやむやになつてはいるが、その条項が入つたことそのものが、ごく当然であることに気づくはずである。そして、国民のためには、もう一つの顔である「防衛権を行使するために自衛隊はできあがつたんだ」とアピールした。これはわたしの言っていることは嘘かもしれないから、皆さんはよく調べてほしい。つまり、もともと自衛隊の創設というものは防衛ではなく、日本にいるアメリカ人の保護のためにつくられたものだということである。

ところで、王権、あるいは一つの独立国家というかたち、これについて検討してみよう。独立国家といった場合、経済の独立、および軍事上の独立、および政治上の独立の三つが挙げることができるといえる。つまり、軍事上の独立とは、その国内に他国の軍隊が駐留・駐屯していないこと。経済においては、自国の意思によつ

て、いろいろな経済問題について検討し、そして意思をはっきりと表現できること。それから、政治については、国民一人一人が自分たちの意思になつた政治を行なうこと、そういう政体をとること、あるいはその国の国王がその形態をとること、というかたちになると。

ところが日本についていうならば、この一、まず軍隊についても、それから二、経済についても、まあ、経済については皆さんも知つてのとおり、アメリカと連動しながらどんどん悪化していつていけると。そして三、これは政体についても、それぞれが日本の意図というよりも、その後ろにあるアメリカの意図によって現象が動いていることはいうまでもない。

これをこのような目に見えた現象面ではなく、それ以外の面で見ることができないのか。例えば、經典にはこのような一節がある。聖者を称賛し、そして聖者に対して帰依し、戒律を守るならば、天界へと至ると。しかし、逆に聖者をそしり、あるいは聖者に対して暴力行為を行なつたり、あるいはまあ、例えば毒ガス攻撃をまいたりしたらどうなるかと。これは激苦地獄へ落ちるといふことになつていけると。

もしこの經典の事実が正しいとするならば、つまり經典に記載されていることが正しいとするならば、いったいこの日本の今の徐々に悪化している国体の状態だけではなく、それをコントロールしているCIA、CIAのあるアメリカという国が当然、天の裁きを受けなければならないはずである。ではいったいその裁きを受けているのか。これは君たちも知つてのとおり、例えば難病であるエイズに始まり、そして、異常気象、これは夏の寒波、あるいは冬の熱波等の異常気象、あるいは雨が降らないといった現象等が毎年何回となく起きるようになってきていると。そして、株価についてもそうだが、株のダウ平均もとうとう四千円を割り、三千円台に突っ込んだと。

これは何を意味しているのかというと、彼らの積み上げていつていっている悪業の数が天によって数えられている証拠である。そしてこの天によって数えられている悪業の結果として、彼らは最後の審判において報いを受けなければならないのである。つまり、このような言い方をすると、非常にキリスト教的に聞こえるかもしれないが、これはキリスト教であろうと、仏教であろうと、天に唾を吐けばその唾は自分の顔で受けなければなら

ないという原則のとおりの結果を得ることになるのである。

彼らは今、オウム真理教に対して毒ガス攻撃を行なっている。それはNHK特集でも表現、番組として成立しているマスタートガス、およびソマン、サリン、VXガス等の神経ガス、これをミックスしたかたちで今使っている。まだ今のところ、二種類の血液に対するガスと、それともう一つのガスは使われていないようである。そして、この次に彼らがとってくる手は何かというと、この一、二、のガスの他に、新しいガスを追加するか、あるいはもう一つの方法としては、いよいよ銃による射殺等の計画に入るはずである。いや、実際のところ、もう入っているといっても過言ではない。これらの予言が果たして成就するかどうかと。まあ、少なくとも猟銃ぐらいの弾ではわたしは跳ね返してしまいうだろうから、もっと強烈な飛び道具を彼らは使うはずである。

そこでだ。これらの現実に対して、信徒である君たちはどうしなければならぬのか。これは原則に戻る必要がある。原則とは何かというと三つである。その一つは何か。それはグルに対する、例えばそれはグルがここに身体を現わそうが、あるいはこの世から去ろうが、どちらにしろ、しっかりと帰依を培うべきである。第二番目の実践は何かというと、真理に対して、つまり、わたしの教え、あるいは過去のいにしえの聖者の方の教えに対してしっかりと帰依を表わすべきである。あるいは第三番目は真理を実践し、そして愛著を捨て、出家したわたしたちの弟子に対して、尊敬の念を持つべきである。

まずこの原則の後、四つの預流支を確定するとするならば、君たちの輪廻が悪くなることはあり得ない。悪くなることはあり得ないとは何かというと、例えばあなたがこの街を歩くとき、いったい目には何が入ってくるのかと。耳からはどういう音が入ってくるのかというと、それは性欲の刺激であったり、あるいは食欲を増大するものであったりすると。あるいはエネルギーそのものがあなたの方のアーナ気を強める働きがあると。したがって、あなたの方がそういうカーリー・ユガの悪条件で生きているんだということを認識し、その認識した上においてしっかりとそれを上昇させる、あるいは止めてしまいう心の働きをもつて、立ち向かうとするならば、あなた方は必ずや、最終的にはあなた方が望む天の世界で享楽を味わうことができるはずである。

わたしは絶えず自問自答している。それは天へ帰ろうか、それとももう少しこの人間世界へ残ろうかと。例えば、この右手の、見えるかな、右手のここにあるできもの、これはイペリットガスによるできものである。例えばここにある水疱、これも同じようにイペリットガスによる水疱である。これらの水疱やできものができているということは、すでに肺はかなり冒されていると見た方がよろしい。したがって、体力等の消耗がなされた後は、気管支喘息あるいは気管支炎のような症状が出ると。これはわたしだけではなく、例えば何度も話したことがあるが、血を吐いた弟子たちがたくさんいると。

このような話をすると、あなた方はこう考えるかもしれない。いや、これは非常に怖いなど。しかしだ。わたしは、これはあなた方信徒に対するシヴァ大神の、そしてすべての真理勝者方の祝福ではないかとも考えている。それはなぜかかというと、あなた方はふだん、死というものの、つまり輪廻における死というものを身近に感じたことがあるだろうか。あるいはあなた方はふだん、死というものを意識し続けたことがあるだろうか。もともと無明の背景にあるもの、つまり非神秘力の背景にあるものは何かというと、現実と呼ばれる瞬間瞬間、刹那刹那に現われてくる情報であると。そしてあなた方はその情報によって、自分が本来この人間の姿というもののは仮の姿である、ということのを忘れさせられ続けていると。

しかしこのような教団の目に見えない、しかし結果としてはつきりとわかっているような攻撃を受けることにより、あなたの方のよく知っているマハー・ケイマ、例えばね、例えばまあ、ヤソーダラーにしろそうだし、まあ、例えばミラレバ、ヴァジラティッサ、ジーヴァカ等もそうだが、それぞれが血を吐き、あるいは出血すると。こういう話を聞くと、ああ、人間というものは病むものであると。やはり、毒ガスの働きというのは聖者の身体を痛めるんだと。しかし、まあ彼らは修行しているから、即回復し、生命に異常を来すことは今のところはないと。しかし、死というものは目の前にあるんだ。ということについては記憶修習できるはずである。

これは言い方を変えれば、この話をわたしがあなたの方にすることにより、あなた方は次のことに集中するきつかけを得ることができると。それは死、そしてその死に対してわたしたちは絶えず準備をする必要があると。

そしてこの現世の見える支配、見えない支配、例えば見える支配とは、あなた方に対して、会社にしるそうだし、あるいは政治機構にしるそうだし、いろんな意味において、あなた方に見える支配において縛っている。見えない支配とは例えば先程述べた、アメリカ政府をはじめとする、あなた方の血、汗で積み上げたものを搾取する魂たちのことだね。これらの支配下に入るのではなく、自分自身はしっかりと聖者の流れに入り、そして聖者に帰依し、そして生き方を確定する必要があるんだと、それはこの在家で生きようが、あるいは出家しようがその必要があると。

というのは、人間は死ぬものであると。例えば修行しても死ぬんだと、修行しなくても死ぬんだと。修行して死ぬ場合と修行しなくて死ぬ場合の違いは何かというところ、その苦しみというものが、例えば生きていたときの苦しみというものが、修行しない人よりも何分の一、あるいは何十分の一と非常に少ないと。あるいは、死後、その生で経験した例えばヴィジョン、あるいはサマディ等で経験した世界には少なくとも行くことができる。こういうメリットがあると。修行しなかった場合、現世的な享楽というものを一時的に強く味わうことができるが、しかし死んだらそれで終わりであると。そしてそれだけではなく、この現世における感覚の苦しみ、イメージの苦しみ等も大きいということになると。そしてこれは最低限のヒナヤーナの原則であると。つまり、自分自身を高い世界へ最低、押し上げるための原則なんだということを認識する必要がある。

では、それよりも前生から修行を積み上げ、高い魂はどうしたらいいんだという問題があると。これは逆手に取る法というものが存在すると。「逆手に取る」とは何かというと、環境の苦しみその他を逆手に取って、そしてそれをエネルギーに変え、昇華する道である。例えば今回この教団の弾圧に対して、目に見えない弾圧に対して、よし、わたしは自分自身が生命を懸けられるかどうかのいよいよ修行に入ろうと。つまり、自分自身が聖に対して命を懸けることができるならば、わたしは少なくとも、第二天界、三十三天には行けるはずだと。なぜならばそれは経典が証明しているところ。そして、絶えず、三宝に帰依するための帰依マントラを唱え、そして自分自身の心を確定させよう。さあ、逆手に取るぞと。これを逆手に取ってエネルギーに変えるぞ、という道を歩くと。これは何かというと、まさにボーディサットヴァの生き方であると。

では、もう一つ。いや、これは最高だと。相手が大きな悪業を積んでくれているところ。よってこの悪業を一気に返してやると。わたしはそのための生き方をしよう。そしてそれによって自分自身は、それらのけがれた魂を未来において救済するための強い縁を作るぞと。もし、こう考えることができるならば、これはヴァジラヤーナの修行者ということになると。

つまり、ここに三段階の修行者の形があると。少なくとも俗に帰依せず、聖に帰依し、そして自分の修行をこつこつ固めていくヒナヤーナの修行と。これはいきつかけであると。これは忍辱の修行としても最高であると。あるいは自分自身がどこで命を捨てるか。例えばこれは仏典にもあるよね、たくさん。虎の前に自分自身の身体を投げ出し、虎が前生のサキヤ神賢の身体のパラーナがあまりにも強いので食べなかったから、わざわざ飛び降り、そして自分自身の身体を殺して、虎の餌食になった話とか。これらはすべて、どこで自分の身体を捨てるのか、つまりどこで自分の聖に対して自分自身を捨てるのかというボーディサットヴァの生き方の表われであると。したがってそれを行なうぞと考える。もう一つは先程言ったヴァジラヤーナの考え方である。さあ、悪業を積んでいるところ。この悪業を積んでいる魂に対してしっかりとそのカルマを解放してあげ、それにより強い縁を結び、来世はそれらのグルとして君臨し、そしてそれらを導くぞという考え方である。

このヒナヤーナの修行者の考え方、あるいはマハーヤーナの修行者の考え方、あるいはヴァジラヤーナの修行者の考え方、この一、二、三のどの道を歩くにしろ、もちろん至る世界は下から順に高くなるわけだが、どの世界を歩くにしろ、あなた方が真理を歩くことは、それはグルの喜びであり、シヴァ大神、すべての真理勝者方の喜びである。

実はわたしは、九二年の仏跡巡りのとき、これは君たちに話したかどうかはわからないが、バーラナシーのイシパタナミガダヤにおいて、つまり初転法輪をなさった地において、天空から、「戦う時が来たぞ」という、何度も何度も立位札押の最中に神々の声を聞いた。そしてもう一つ、ブッダガヤのマハー・ボーディ・トゥリーつまり菩提樹のもとで瞑想をしている時も、同じように声を聞いた。これは何を意味しているのかというと、それまで仏跡巡りをするなというサインだとわたしは考えた。したがって九三年、インドツアーは中止さ

これが解脱した者と、それから解脱してない者の違いである。それは例えばわたしの体全体が、その毒ガスの影響によって、あるいは病によって冒されたとしても、わたしの活動は続く。したがって君たちはその解脱の素晴らしさ、これを理解する必要がある。

ではなぜ、素晴らしいといえるのかという問題について、次は考えなければならぬ。わたしたちはわたしたちが死ぬ直前の状態が次の輪廻の状態であるという教えを知っているよね、君たちは。例えば例を挙げるならば、ある人がいたとして、その人が例えば薬物によって無智の状態、全く記憶もない、眠りのような状態で死んでいった場合は、来世は動物界へ転生すると。でしょ。例えば、「痛い痛い痛い」と苦しみながら死んでいった場合、その魂はその嫌悪、痛みのカルマによって地獄へ転生する。だよ。例えば、「食べたい食べたーい」、「あれが欲しいよ、これが欲しい」という欲求の状態で死んでいった場合は低級霊域へ転生するよね。どうか。

じゃあ、今生救世主であり、来世救世主の魂は、どのような生き方で死ぬと思うか。当然心の中に絶えず救済を意識し、そして活動を続け、そのままの状態であつてしまふと。意識はそのままの状態であつて救済を意識しているから、たとえこの肉体が滅んだとしても、次に肉体が生じると、その肉体はまた救世主の肉体となる。わかるかな。これが救済者、あるいはボーディサットヴァの生き方なんだ。

ちようとそれは例えはサキャ神賢がすべての魂に供養しようといつて、布施堂を建てられ、そして多くの布施をなさり、それを嫉妬したマールが、あるいは有能神が——ここで「マールが、あるいは有能神が」と言っているのは、經典によつてその二つのパターンがあるから、今話をしているわけだけど——そのサキャ神賢の財物を隠されたときに、サキャ神賢のとられる道というのは、絶えず一つしかない。それは布施を続けるために、例えば草を刈つたり、あるいは実際に布施を、例えば修行者に対して布施を行なうために、地獄へ落ちる道があつたとしても、堂々と布施をなさる。つまり、そこで死んだとしても、その布施をした、「布施をし続けるぞ」という意識は次の身体をまた獲得すると。その次の身体は、またその布施の実践に適した身体となる、ということになる。わかるかな。

同じように、ボーディサットヴァも同じである。つまり、ボーディサットヴァも死ぬ直前の意識状態、というよりもそれまで培ってきた意識状態の状態で逝かなければならない。だから例えばボーディサットヴァが「ああ、苦しいよ苦しいよ、痛いよ痛いよ、悲しいよ悲しいよ」ということは決してあり得ないのである。この肉体もまたマヤーである。「肉体もまたマヤー」とは何か、ということも、この本で述べられている。

経験の構成、あるいは今生培った経験の構成の結果として存在している。これが肉体である。ということはいくらでもまた無常を根本として、ただ単に蓄積されたものにすぎない。

の最終地点でもないのである。なぜならば、悟り・解脱の最終地点は全放棄、つまりすべてのものに対して完全に放棄、つまり手放し切る状態を指すと。だとするならば、この病に苦しんでいる肉体に対して放棄できないはずはない。これは口で言うのは簡単である。そして多くの宗教家が口で言ってきたと。しかし、例えば病で倒れ、咳をし、「ゴホン、ゴホン」といいながら、ベッドで何週間も何カ月も苦しみがら死んでいくと。これは放棄した状態であるかどうか。放棄した状態ではないということになると。

が救済しなければならぬこと、その救済計画をしつかりと達成しなければならぬわけである。これが「成就」とそれから「凡夫」の違いである。

も、そのときには別に肉体に苦しみがあるわけではなく、肉体からすっかり抜け出し、いろんな経験をするということになる。これはサマデイである。

したがって、あなた方が目標としなければならないのは、グルである。ではグルの何を目標とする必要があるのか。それはグルの生き方を目標とする必要がある。これは在家の道であろうと出家の道であろうと、グルの生き方を目的とする必要がある。そして、死ぬまでには自分自身は少なくとも人間以上の意識をしつかり培い、堂々とこの肉体を捨てられる、肉体から離れられる要素を形成する必要があるのである。そして、わたし

はそのためのお手伝いをあなた方が死ぬまでしよう。

とはいえ、先程も言ったとおり、わたしの方が先に逝く可能性が非常に高い。わたしが「可能性が高い」と言っているのは、グナの干渉、別の言い方をすれば、マラーの干渉、悪魔の干渉がどの程度わたしに対して影響を与えるのかということは未知数なのである。なぜならば、ボーディサットヴァの生き方というのは絶えず TRY TO THE BEST、つまりベストを尽くしている。ベストを尽くしているということは、絶えず、過負荷の状態で存在していると。過負荷ってわかるよね。わかりますか。この過負荷の状態で存在しているということは、耐えられたから、その次のまた限界点へ至るだろう。これはわたしが四十一歳、つまり九十六年である。それに耐えられたら、もうその後はわたしは四十年、五十年、六十年と生きるかもしれない。だからポイントはこの二年間にかかっていると。

しかし、そこで来る過負荷というものは、かなり大きなものであることは間違いない。したがって、あなた方にもわたしの死期を以前から予言して、そして、今回第一回目の死期、ここではつきり現われたのがサリン等の毒ガス現象であったということである。次はひょっとしたら原爆かもしれないね。事実、まあわたしの調査によると、この日本の重力異常をアメリカが検査して、——まあ、この重力異常というものは何に影響を与えるのかというと、ICBM、大陸間弾道弾のね、修正というか、びったしとその目的に、目的の場所に当てるために必要な条件になるわけだが、そのための修正、つまり、今ICBMは日本に向けられてセットされているんじゃないかという話もある。したがって、九十六年、原爆というの、ま、原爆じゃない、水爆でもいいけどね、核弾頭というの非常に、ない話じゃないな、という印象を持っている。

まあ、いずれにしろ、わたしたちはこの人間の生を一つの場として、つまり自分自身の高い世界へ至るための訓練の場として、しっかりと認識し、瞬間瞬間、一時一時を大切に生きようではないか。いいね。そのためには聖・科・武、あるいは四つの育、徳育、智慧育、それから聖育、そして気育というこの四つの育をしっかりと培いなさい。いいね。じゃ、しっかりと頑張ろう。

第五十五話 (一九九四年四月二十九日 名古屋支部)

四月、細川政権が予言どおり倒れ、そしてこの羽田政権が成立した。この羽田政権が、いったいいつまでもつかというと、これは今年の十一月までもつように規定されている。そして、政局その他は今回の細川から羽田への移行、こういうものではない、もつとより混乱、というより、ぐちゃぐちゃな状態に、この日本はいよいよ突入する。これらはすべてフリーメーソンの計画どおり進められている。

では、フリーメーソンは、なぜこのぐちゃぐちゃな状態を作ろうとしているのかというと、彼らはもともと人間ではこの地上、地球というものはコントロールできず——ここでいう「コントロール」とは支配という意味だが——支配できず、そしてそれゆえに聖書の予言あるいはノストラダムスの予言、あるいはいろいろな聖者方の予言等を研究し、この世の中をぐちゃぐちゃにし、最終戦争に対しての準備を行なっていると。最終戦争に対する準備とは何かというと、これはまさにその最終戦争をクリアしない限り、キリストの統治がないと彼らは考えているからである。これこそがまさに聖書の予言の成就であり、そして自分たちが静かにこの地球で神へ至る道を歩くことができるただ一つの道である、と彼らは考えているのである。

この一九九〇年代の終わりと二〇〇〇年代にかけて、いったい何が起きるのかと。もうその前兆はすでに現われているが、各地での宗教戦争、そしてそこでのキリスト教徒の他の宗派に対する圧迫、および支配がどんどんどんどん強められる。例えば、スリランカはテラヴァーダの仏教国であるとはいっているが、実際コントロールしている人たちは、キリスト教徒もいるし、また話す言語もスリランカの言葉ではなく、その支配階級は英語を話していると。

これは聖書では、まさに「神に逆らう言葉」として表現されている。インドはどうかというと、イギリスの支配下に遭い、インドの上流階級も英語を話すと。もともと、神国、神の国と呼ばれていた日本はどうかと。これも同じように、中学校、高校と、もう今では幼稚園からそのカリキュラムがあるみたいだが、英語を話し、そして同じように神に逆らう言葉を話すことになる。これはまさにバベルの塔の完成である。

ここでわたしが「バベルの塔」と言っているのは、何を意味しているのかというと、世界の民が同じ言語を話し、理解すると。まあ、昔は理解をしていたと。そしてバベルの塔を建設し、神に挑戦しようとしたと。そしてそのバベルの塔が、かなり高い時期に至ろうとしたと。そこで結局、そのバベルの塔を崩壊させるために、神は言語をいろいろつくり、そしてそれによって分散——人間の魂の理解力を分散させるために、いろいろな言語をつくったといわれている。

ではなぜ、人間が同じ言語を話してはいけなかったのかという問題がある。これは同じ言語を話すことにより、共通の理解を行なうわけだが、その理解はあくまでも煩悩的な理解にすぎず、というのはエゴというものを本質的に個々は有しているから、そのエゴにおいては自分の利益、あるいは自分の家族の利益、自分の社会の利益、自分の国家の利益——ここから逸脱することはない。したがって、ただ単に煩悩だけのために言語が発達し、そして共通の言語が登場すると、共通の言語が登場することにより、その煩悩はいよいよ増大され——というのは、この人間の世界に輪廻転生している魂のほとんどは悪趣からの転生であり、天からの転生は少ないからである。それによりこの人間界はいよいよ動物化、低級霊域化するからである。したがって、それを神は分けたもうたということになっている。

では、ここでいう神とは何かというと、旧約聖書のただ一人の神であるヤハウェなのか、あるいはヒンドウー教ただ一人の神であるシヴァ大神なのかということになる。結論からいうと下から上は見えないから、「同じだ」と聖書でいっているとすれば、同じだと理解してもいいかもしれないし、あるいは例えば仏教的な見地に立って、「ああ、言語をコントロールしているとするならば、これこれの世界のこれこれの神だな」、あるいは、「裁きの神とするならば、これこれの世界の神だな」と理解することができる人は、そのように理解すればよい。

まあ、要するに、どの神がどうしたよりも大切なことは、これからこの人間の世界がどうなり、わたしたちがどのような生き方をするることによって、それを乗り越えることができるのかという問題に対しての、わたしたちは答えを用意する必要があるのである。その答えをただ一つ与える教え、それが真理であると。

この真理とは何かというと、これは仏教の奥深くに隠れているエッセンス、あるいはキリスト教の聖典、バイブルではなく、キリストの教えの中に書かれているエッセンス、この中で非常に共通性があるわけだが、この共通性の部分プラス、それより崇高な教え、これは仏教に隠れているわけだが、あるいはヨーガ等に隠れているわけだが、それを真理と定義すると。そして、人間の魂をとにかく進化させ、人間が人間界に生まれ変わる、あるいは意識墮落天や天界に生まれ変わるための教え、これが真理であると。

では、この真理に対して反対の教えとは何かというと、それはまさにわたしたちを人間界以下へ転生させる教えということになる。そしてそれによって縛る意識状態、つまり人間を無智化し、縛る意識状態をマール、悪魔と呼んでいるのである。

つまり、定義ははっきりしている。低い世界へ引っぱり下ろすものは、すべてはマールであり、それから上の世界へ引っぱり上げるもの、これはすべて真理であるということになる。そしてその真理をぶら下げ、衆生済度に乗り出す魂を救世主と呼ぶと。この救世主は何かというと、これはまさにメサイアであると。

では、このメサイアとキリストの違いは何なのか。もともとキリストとは何かというと、頭に油が注がれた者、という意味がある。「おやおや」と君たちは考えるかもしれない。頭に油が注がれた者といったら、それはまさに武人権頂王ではないかと。そしてその武人権頂王がしっかり戒誓行を行ない、そして輪宝が現われると、それは転輪聖王ではないかと。まさにそのとおりである。つまり、ここでキリスト教とそれから仏教の共通性が出てくることになる。

ところで、次の問題点が生じる。この転輪聖王に対する認識が南伝仏教と北伝仏教は違うぞと。南伝仏教においては転輪聖王は悪趣をまだ捨断していないから、動物界へ転生することもあるし、低級霊域へ転生することもあるし、あるいは地獄へ転生することもあると。しかし、北伝仏教においては仏陀と同じ、つまり転輪聖王と仏陀は同格として扱われると。

これはいったいどのように違うのかと。これはまさに転輪聖王の定義を理解すれば、よくわかることである。つまり、転輪聖王は、動物界・低級霊域・地獄へ生まれ変わることがある。「生まれ変わる」ではなくて、

「生まれ変わることがある」ということは、転輪聖王の中でも最終段階に至る、つまり法則をしっかりと具足している魂である。転輪聖王は生まれ変わらないということになる。つまり単なる可能を南伝仏教では表わしているわけであり、決定ではないということである。したがって、北伝仏教の方が狭義、つまり狭い範囲におけるキリスト、転輪聖王の定義を表わし、南伝仏教の方が広義、つまり広い範囲の転輪聖王の定義をしていると理解するならば、この二つの矛盾というものは生じないことになる。

つまり、仏陀と同格、あるいは仏陀に非常に近い状態の魂が転輪聖王になることを北伝は示し、南伝ではその前の段階において法則を土台とした魂が、この地上を統治すること、しかしまだ完全に煩惱が切れておらず、煩惱を有し、それによって三悪趣へ至るかもしれない魂までも転輪聖王として定義しているのである。

このように、言葉というものは非常に厳密にとらえないと、わたしたちの修行の妨げとなる。そして、だいたい多くの信徒の悩み・質問というのは、この言葉によって理解ができなくなっていると思われる。わたしは必ずわからない単語があると、『広辞苑』『大辞林』といった個々の辞書を引き、そしてその言葉がどのように定義されているかを確認する。なぜならば、わたしがあなたの方に法則を説くとき、わたしは二つの媒体によって説くしかないからである。一つは「ヴァイブレーション」と呼ばれる、これは心対心のつながり。それからもう一つは今言った「言葉」である。したがって、いかに言葉を厳密に定義し、話さなければ、逆にわたし自体の不徳となる。

人は死ぬ。必ず死ぬ。絶対死ぬ。死を避けることはできない。そして、真理の第一歩は証智、つまり、ありのままに現象を見つめる力なのである。しかし例えば、あなた方もそうだし、あなた方の周りの魂もこの証智がすでにできていない。例えば、「人間は死ぬ」と言われて、「ああ、そうね」と言う。「じゃあ、死の準備、あるいは死後の準備をしていますか」と言うと、「そんなもの知るわけじゃない」。ちょうどこれはまさにアリとキリギリスの話によく似ている。

賢ければ、わずか、例えば、おととい大山倍達という極真会の空手の偉大な先生が亡くなったわけだが、彼も例えば牛の角を折り、そして七十数キロという体重で百メートル十秒台で走ったという偉大な武術家なわけ

だが、結局七十歳で癌で死んでしまったと。

こういう例は人間は必ず死ぬものである。したがって、その準備をしなければならない。どんなに生きたとしても八十、九十が関の山だと。そしてその準備のためにはこの人生は短いんだと。そして、その準備ができただかどうかは、わたしたちの生活においていろいろかたが現われてくるんだと。その現われてくるかたがしっかりと理解する必要があるんだと。

例えば、死ぬ前に「食いたい食いたい」と言って死んだら低級霊域へ落ちるし、例えば薬によって全く昏睡状態で死んだら動物界へ転生することは間違いないし、体全体に痛みを発し、「痛いよ痛いよ、苦しいよ」と言って死んだら地獄へ転生するし、例えば「わたしの愛する人はどうなっているの」と言って死んでいったら人間界へ転生すると。

このようなかたちでしっかりと、どの世界へ転生するかは、その死ぬ寸前に現われるのである。したがってあなた方は、それらのすべての感覚・感情・イメージ・意志、あるいは経験の構成等を捨断し、そして自分が生きなければならぬこれからの人生をしっかりと最高の道として使ってほしいと思う。

そうすると、こういう信徒もいるかもしれない。「わたしは現実的によくなりたいんだ」と。それはそのとおりだ。現実的によくなる、もし現実的によくなっていくとするならば——法則を実践して——それはすでにあなたが今の自分から脱皮し、高い世界へ至る一步を踏み出したことになる。

それは昨日の群馬からの説法でも言ったとおり、例えば女性にモテモテになるというのは愛欲神の世界へ至る道程に必要な行程だし、例えば非常に理知的になるといのは意識墮落天へ至るためのプロセスだし、例えば逆に身体が絶えず歓喜に包まれるといのは神聖世界へ至るプロセスであると。したがって、このような現象が現れないで、あなたが意識墮落天や天界やあるいは神聖世界へ生まれ変わることとは不可能なのである。したがって、あなたが一つ一つの法則を確実に自分のものにし、そして自分のものにした法則が、先程述べたような現象を起こす、起こせるように努力してもらいたいと思います。いいね。

(一同)はい。

わたしたちは外側の感覚器官と同時に内側の感覚器官を有する。この内側の感覚器官を理解できるようになる段階、これがクンダリーニー・ヨーガの完全なる成就である。

外側の感覚器官と内側の感覚器官の違いは何かというと、わたしたちは一般的に、今日の大阪でも説いたとおり、放出の歓喜、あるいは放出の喜びに浸っている。つまり、自分自身が培った多くの功德、あるいは善行によるプラーナの喜びを外側に放出すると。外側に放出するときに、外的対象と結びつき、そして外的対象と結びついたその対象を経験することにより喜ぶ。その典型的な例が性愛である。そして、その究極が、完全なるプラーナの源の放出であるボーディチャッタの放出ということになる。ボーディチャッタとは何かというと、「偉大なる覚醒の心の種子」とでもいうのが正しいだろう。

ではなぜ、偉大な覚醒の心の種子ということができるのだろうか。これはもともとわたしたちの偉大な心の覚醒に必要なものとして、「歓喜」を挙げることができる。この歓喜は蓄積の歓喜である。つまり、多くの功德を積み、善行をなし、そして悪業を捨断し、完全にザンゲによって浄化し尽くすと、わたしたちの内側のプラーナ、特にイダー・ピングラ・スシュムナーという二つの氣道に歓喜が浸る。この歓喜は何を意味するかというと、わたしたちは本来、五感ではない内側の感覚器官によって最高の喜びを経験することができるんだ、ということをおわたしたちに指し示すのである。

この歓喜の経験が第一の覚醒ということになる。そしてこの歓喜はわたしたちの心に大きな影響を与え、精神の安定と同時に完全なる平安を与える。

そうすると、こういう人がいるかもしれない。「いや、外側のプラーナの経験は、よりダイナミックである」と。初めのうちはそうかもしれない。しかし、内側の歓喜・蓄積の歓喜を経験し出すと、外側の喜びというのは大したことがなくなるのである。そして例えばわたしたちが外側の喜びのために放出を続けると、つまり蓄積された喜びのプラーナの放出を続けると、次には精神が不安定になり、心が殺伐とし、そしてどんどん

んどん現象が悪化し出す。これが徳の消耗である。

では、第二番目の歓喜の状態、第一番目の覚醒の次に何が起きるかということ、先程述べたとおり、第二番目にそのプラーナは心に大きな影響を与え、安定と同時に至福を与える。これが第二番目の覚醒と呼ばれるものである。

第三番目の喜びは何であるかというと、そのプラーナの動きが完全に静止すると。そして完全に静止し、それによって内側の世界と外側の世界が完全に同化されたような状態を経験する。というより、これは完全に同化された状態ということができる。つまり、内側の充実したエネルギーが感覚器官をシャットアウトし、そしてそれによって外側の現象、これを正確に止めたかたちで観察できる状態を培う。

この段階が寂止の完成ということが出来る。そしてこの第四段階の覚醒は、この歓喜のプラーナがよりいっそう充実し、そして完全に頭頂を満たす。そしてそれは満ちて落ちるという段階を超え、前面後面ともに充実された状態が生じると。この状態で、先程述べた寂止、プラス対象に対する正しい認識、つまり、正観が生じる。

この寂止と正観が完全に完成していく段階が、ボーディサットヴァの道であり、そして、このボーディサットヴァの道の最終地点が覚者なのである。

では、一般のヨーガとどこがどのように違うのかという点について考えなければならない。一般のヨーガの場合、確かに心を静めるために座するというプロセスが存在する。しかし、現代のようにカーリー・ユガの時代――このカーリー・ユガの時代というのは、まあ、ちょっと難しい言葉を使うならば、成劫とか住劫とか壊劫とか空劫とか呼ばれる、つまり宇宙の創造期の状態、宇宙の維持期の状態、宇宙の破壊期の状態、そして宇宙の虚空期の状態の四つがあるわけだが、この住劫の最後の段階に入っている状態、この状態がカーリー・ユガである。

このカーリー・ユガの最後の段階でどのような現象が起きるかということ、生きていることそのものが悪い現象が起きる。例えば、まさにそれはこの日本がそのとおりである。目で見るものを修習したらどこへ行く

のかと。それは地獄、つまり邪悪心を生起させられたり、あるいは単なる性的欲望を生起させられる、動物、あるいは正しくないいろいろな実践をさせられる低級靈域、といった要素しか存在しない。

このカーリー・ユガの時代で、ただ単に一日のうち何時間か座ればいいんだと考えるとした場合、わたしたちの徳は知らず知らずのうちに消耗される。つまり、放出の喜びの状態により、プラーナがどんどん消耗される状態であると。したがって単なるヨーガ瞑想でわたしたちが最終地点へ到達することは不可能なのである。

したがって、カーリー・ユガにおいては必ず、大乘、あるいはタントラ・ヴァジラヤーナと呼ばれる教えがそこに存在する。これは何を意味するのかというと、偉大な覚醒の魂からプラーナを借りてきたり、あるいは多くの善行を周りに与えることにより、その喜びのプラーナを自分の内側に吸収し、そしてそれによって完全なる第一の覚醒を達成し、第二、第三、第四と覚醒を進める修行を指すと。

つまり、わたしたちが布施の実践や、持戒の実践や、忍辱の実践や、多くの人を救済する精進の実践や、あるいは瞑想の実践や、あるいは智慧の実践という六つの極限を行わなければならない理由というのは、この時代がカーリー・ユガだからなのである。

例えば、もしこの時代がもっと優れた時代、つまり目で見るもの、耳で聞く音、あるいは鼻でかぐ匂い、舌で味わう味覚、あるいは触覚器で経験する感覚における触覚、このようなものがすべて真理のデータであり、そして真理の実践にプラスになる時代であるとするならば、わたしたちはただ単にその世界に生きているだけで解脱し、悟りを開くことができるのである。しかし、それはキリスト統治が始まらない限り、訪れないということが出来る。

仏教の予言ではまもなく大きな戦いが生じ、そしてそれによって、山に隠れて住んでいた人が「さあこれから戒律を守りましょう」といって戒律を守るような、良き時代が到来することを予言している。また聖書においても、新しい、今から二千年前に登場したイエス・キリスト以上のキリストが登場し、そして千年王国が出現することを予言している。

この千年王国とか、あるいは新しい時代の条件は先程述べた、目で見る、耳で聞く、鼻で嗅ぐ、舌で味わう、あるいは触覚器官で感覚を経験するこのすべてが、自分たちのステージを上げるような世の中が出現するということである。

ではなぜ、そこで例えば千年王国という、例えば今八十年、あるいは百年といった短い寿命しかない時代から、いきなり千年王国へと至っていくのだろうか、という点について考えなければならぬ。

この内側の歓喜の蓄積というものは、神々への移行を表わす。神々への移行を表わすということは何を意味するのかというと、それは人間の寿命から神々の寿命へと移行することを表わしているのである。つまり、神々の寿命へと移行するということは、わたしたちが死なない身体を形成していくことを表わしている。そして、この千年というのは、まあ人間界のある程度歓喜を蓄積した場合、可能となる年数である。

ではなぜ、可能となる年数といえるのかというと、これはインドのヨーギー等が瞑想修行に励んだ場合、千年、あるいは二千年生きているという伝説的な話をわたしもインドで何度も聞いたことがあるし、実際、瞑想も聞いたことがあるからである。つまり、これは先程述べた内側のボーディチャッタを完全に保全することにより、ボーディチャッタが増大し、そして寿命を延ばす効果を表わしているとみるべきである。

人は死ぬ。必ず死ぬ。絶対死ぬ。死を避けることはできない。そして、その死に対してのわたしたちのアップローチこそ、この人間として生きている上における最高の挑戦、また最高の生き方ではないかと考える。さあ、あなた方がただ単に現世にまみれ、このカーリー・ユガの毒を吸収し、そして三悪趣へ落ちないことを祈りたいものである。

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO